

2026/27 シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方

2026 年 10 月 21 日

予防接種推進専門協議会

・2026/27 シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの積極的な接種を強く推奨します

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）のパンデミック終息後、社会では人流が増加して、様々な感染症の流行がみられ、そうした中インフルエンザも 2023 年 9 月頃より急激に増加するなど、流行状況の予測がつきにくい状態が続きました。2025/26 シーズンにおいては、国内の定点当たり報告数が例年より早く第 39 週に流行開始の目安とされる 1.00 を超え、その後 10 月末の第 44 週以降急激に上昇し、第 47 週にピークとなる定点当たり報告数 51.24 に達するなど、2024/25 シーズンの 64.43 に次ぐ定点当たり報告数となりました。今期 2026/27 シーズンは、2026 年第 34 週の定点当たり報告数が 1.11 となり、流行開始の目安とされる 1.00 を例年より早い時期に超えるなど、早くから流行が始まっており、各自治体におけるインフルエンザワクチン定期接種の接種開始時期も早める対応がとられました^{1),2)}。新型コロナウイルス感染症との同時流行も懸念されることから、速やかなワクチン接種が求められています。

一方で 2026/27 シーズンのインフルエンザワクチンの供給は 5,190 万回分と近年の平均使用量を超える量が供給される予定であり、ワクチンの出荷も早い状況にあるので³⁾、現段階で不足する心配はありません。

インフルエンザワクチンは、インフルエンザの発症を予防する効果があり、学校での欠席日数を減らす効果や⁴⁾、インフルエンザによる入院を減らす効果⁵⁾も報告されています。予防接種推進専門協議会は 2026/27 シーズンにおいても、インフルエンザワクチンの接種を受けることを強く推奨いたします。

・新型コロナウイルス感染症の流行も続いています

入院を含む重症化を予防する手段としてのワクチン接種は有効であると考えられ
オミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種、特に定期接種を強く推奨します

新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月に感染症法上の新型インフルエンザ等感染症（2 類相当）から 5 類感染症となり、感染対策上の法的なしばりが緩和されました。それに伴い社会活動の様々な制限がなくなりましたが、現在も流行は続いており、入院患者の約 80%が、60 歳以上の高齢者です⁶⁾。一方この間のオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種率は必ずしも高くない状況です⁷⁾。

新型コロナワクチンは 2024 年 4 月 1 日から定期接種に位置付けられ、65 歳以上の方及び 60～64 歳で心臓、腎臓または呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方等を対象に、2024 年 10 月から秋冬接種として年に 1 回接種することになりました。定期接種対象者以外の方については、任意接種として個々の判断で接種していただくこととなります。また使用されるワクチンの抗原組成については、最新の WHO の推奨する抗原組成を用いることを基本とすることとされており⁸⁾、2026 年度は、厚生労働省の審議会により決定された、現在の流行株に広範かつ強力な中和抗体応答や有効性を示す、XFG または NB.1.8.1 に対応したワクチンが供給されています⁹⁾。新型コロナワクチンの有効性に関して、国内の 2025 年 4 月から 2025 年 9 月における、60 歳以上の者における JN.1 系統対応 1 価ワクチン接種の入院予防効果は、JN.1 系統対応 1 価ワクチンを接種していない者と比較して 72.1%であったとされています¹⁰⁾。また安全性に関しては、国内の審議会における新型コロナワクチンの副反応疑い報告の状況を踏まえた評価において、最新の報告状況を踏まえても、その安全性において重大な懸念は認められないと評価されています¹¹⁾。

予防接種推進専門協議会は、重症化や罹患後症状の発症を抑えるためにも、2026/27 シーズン向けオミクロン変異株対応新型コロナワクチンの接種、特に定期接種を強く推奨いたします。

・高齢者の方に、肺炎球菌ワクチンの接種を強く推奨します

肺炎球菌ワクチンには 23 価莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）と 15 価結合型ワクチン（PCV15）、20 価結合型ワクチン（PCV20）、21 価結合型ワクチン（PCV21）があります。65 歳の高齢者および 60 歳から 65 歳未満の日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有する方を対象として実施されている定期接種には、2026 年 4 月より PCV20 が使用されていますが、PCV15、PCV21 も任意接種として接種可能です。ただ高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチン定期接種の実施率は低水準で経過しており、より一層の接種率向上が求められています¹²⁾。

肺炎球菌は肺炎の主要な原因菌であり、菌血症や細菌性髄膜炎などの重症感染症を起こしやすい細菌です。高齢者の方は肺炎球菌感染症が重症化するリスクが高いため、定期接種の対象年齢にかかわらず、未接種の方には肺炎球菌ワクチンを接種することが医学的観点から推奨されます。定期接種対象外の 65 歳以上の高齢者（過去に定期接種で PPSV23 を接種してから 5 年以上経過し、再接種に該当する高齢者を含む）および 65 歳未満の肺炎球菌感染症に罹患するリスクの高い方には、PCV20、PCV21 の接種が推奨されます¹³⁾。

【文献】

- 1) IDWR 2026 年第 35 号<注目すべき感染症> インフルエンザ
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/featured/2026/35/index.html>
(2026 年 10 月 7 日閲覧)
- 2) 日医発第 1084 号 (健Ⅱ) 令和 8 年 9 月 1 日「2026/27 シーズンのインフルエンザワクチン接種について」
https://ibaraisikai.or.jp/bunsyo/pdf/2026ken2_1084.pdf
(2026 年 10 月 7 日閲覧)
- 3) 第 40 回厚生科学審議会 予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 資料 (2026 年 8 月 26 日) https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_75667.html
(2026 年 10 月 7 日閲覧)
- 4) Jefferson T, Rivetti A, Di Pietrantonj C, Demicheli V. Vaccines for preventing influenza in healthy children. The Cochrane database of systematic reviews 2018;2:Cd004879.
- 5) Talbot HK, Zhu Y, Chen Q, Williams JV, Thompson MG, Griffin MR. Effectiveness of influenza vaccine for preventing laboratory-confirmed influenza hospitalizations in adults, 2011-2012 influenza season. Clinical infectious diseases : an official publication of the Infectious Diseases Society of America 2013;56:1774-7.
- 6) 国立危機管理研究機構：急性呼吸器感染症サーベイランス週報.
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idss/target-diseases/acute-respiratory-infection/weekly-report/index.html>
(2026 年 10 月 7 日閲覧)
- 7) 第 56 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会・第 79 回厚生科学審議会感染症部会 資料 (2025 年 9 月 15 日)：新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染状況及び取組状況等について.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/001146454.pdf>
(2026 年 10 月 7 日閲覧)
- 8) WHO. Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines (16 May 2026).
<https://www.who.int/news/item/16-05-2026-statement-on-the-antigen-composition-of-covid-19-vaccines>
(2026 年 10 月 7 日閲覧)

- 9) 第4回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 研究開発及び生産・流通部会 季節性インフルエンザワクチン及び新型コロナワクチンの製造株について検討する小委員会 資料「2026/27 シーズン向け 新型コロナワクチンの抗原組成について」2026 (令和8) 年5月26日.
https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/newpage_00273.html
(2026年10月7日閲覧)
- 10) 長崎大学熱帯医学研究所：Vaccine Effectiveness Real-Time Surveillance for SARS-CoV-2 (VERSUS) Study、第13報.
<https://www.tm.nagasaki-u.ac.jp/versus/results/20260721.html>
(2026年10月7日閲覧)
- 11) 第67回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 資料 (2026(令和8)年9月2日)：新型コロナワクチンの接種について.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001744594.pdf>
(2026年10月7日閲覧)
- 12) 第22回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会ワクチン評価に関する小委員会 資料 (令和5年12月1日)：高齢者に対する肺炎球菌ワクチンについて.
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001173696.pdf>
(2026年10月7日閲覧)
- 13) 日本呼吸器学会 感染症・結核学術部会ワクチンWG/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会：「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方 (第8版一部修正)」(2026年7月15日)
https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV_260715.pdf
(2026年10月7日閲覧)
https://www.jrs.or.jp/activities/guidelines/file/65yrs_vaccine_ver8_20260715.pdf
(2026年10月7日閲覧)